

危険を知る

私は以前、某メーカーで二輪テストライダーを15年ほどしておりました。テストライダーやテストドライバーというと、高速走行など危険をとまなう特殊な運転と思われ、安全運転とは対極のものとイメージされやすいですが、自分の身は自分で守るという視点で見れば、一般的の運転に通ずることが多くあります。

運転に対する考え方の一例ですが、皆様のご家庭には必ず包丁があると思います。その包丁ですが、料理の方が厨房で使用していると便利な道具です。奥さんが台所で使用していると、これも便利な道具です。しかし、変な人間がその包丁を外に持ち出し、人に向けると凶器となります。包丁そのものは、人が持たないと何の機能もない単なる置物です。それを持った人によって変わります。この包丁を車に置き換えて考えてください。どんな性能の良い車も人が運転しないと動きません。運転する人次第で安全な乗り物にもなるし、事故を起こす凶器にも変わります。

安全運転を行うためにドライバーの方には、道具としての車の良い面だけではなく危険な面も良く知っておいてほしい。怖さを知っていれば運転は変わります。一番怖いことは、怖さを知らないことだと思います。一般的なドライバーですと運転免許を取得した後、自分の運転に対するアドバイスを受ける機会はほとんどないと思います。ぜひ何かの機会に安全運転研修や講習会などに参加して、車の性能や自分の運転を、ご自身で見直していただきたいと思います。

実技教官
滝口 禎雅

